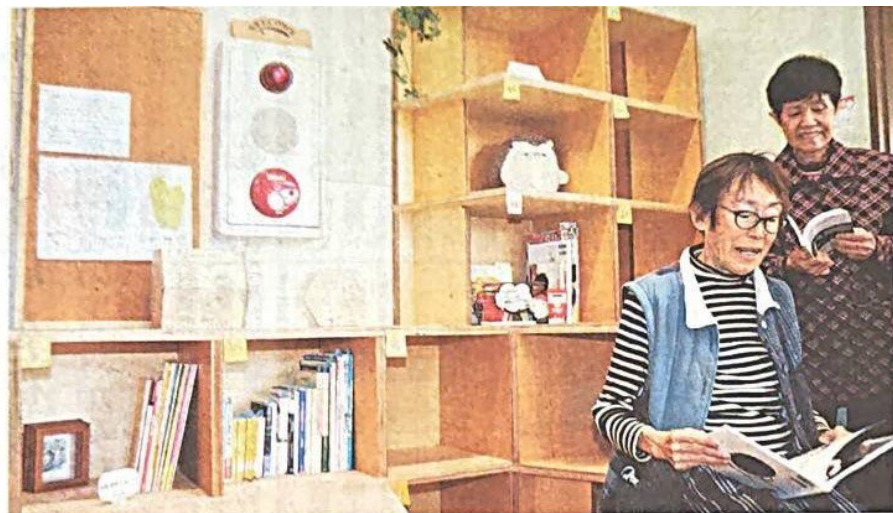


本棚の一角 交流拠点に

東浦 住民サロンに「ひと・はこ文庫」誕生



個人が本棚の一角のオーナーとなり、蔵書を並べる「ひと・はこ文庫」が、東浦町緒川の住民交流サロン「地域の縁側グリーン・ラソ」に誕生した。訪れた人は、その本を閲覧したり、借りたりすることができ、本を介した新たな交流拠点として、誰かの居場所となることを関係者は期待している。（望月海希）

■区画月額1200円

並ぶ棚に、料理や旅行関連の雑誌が置かれた棚。持ち主の名前は明かされていない



①オーナーがおすすめの本などを並べる「ひと・はこ文庫」
②2月下旬の組み立て作業に参加した地域住民ら
③いずれも東浦町緒川の「地域の縁側グリーン・ラソ」で

ちた特報
ニュースのつぼ

いが、それぞれ個性がにじむ。

全国で広がる「一箱本棚オーナー制度」。グリーン・ラソでは、月額1200円で区画を貸し出す。オーナーは、おすすめの本を置くほか、手作り雑貨などを販売することもできる。

グリーン・ラソはこれまで、有志が日替わりで昼食を提供する「ワンディシェフ」や、音楽や体操、ゲームなどの趣味を楽しめる場づくりを進めてきた。

今回の目的の一つは、仕事などで日中に来づらい人が立ち寄れる機会をつくること。運営する町内の認定NPO法人「絆」の山崎紀恵子代表理事は「本があれば、誰かと話すことも、一人でゆっくりと過ごすこともできる。多世代の人が集まる場所になってほしい」と願う。

温かみがある木製の本棚

は、愛知淑徳大（長久手市）で建築やインテリアを学ぶ学生たちが設計した。グリーン・ラソの外にある六角形の木製デッキ「Bee テラス」にちなんだデザイン。学校で長年使われ、廃棄予定だった製図机を活用した。

■延べ160人参加

小雪がちらつく2月下旬、3日間にわたり組み立て作業があり、学生や地域住民ら延べ160人が参加した。本棚の各区画に付けるナンバプレート作りには小さな子どもも協力し、一体となって完成させた。同大3年の小林啓次朗さん（21）は「地域の人と交流しながら作るのが新鮮で楽しい」と話していた。

今月8日にお披露目会があり、計53区画のうち3分の1でオーナーが決まった。山崎代表理事は「まだ生まれて。これから、どんどん埋まっていくのが楽しみ」と本棚を見つめた。オーナーの希望者は絆0562（83）7563まで。居住地は問わない。本を借りる場合は、初回に登録料（300円）が必要。

2025年3月18日（火）中日新聞 知多版14面より

この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。